



国際ロータリー第2630地区 岐阜 Aグループ
岐阜中ロータリークラブ

平成 28 年 9 月 6 日(火)

第 1206 回例会 第 1125 号

Weekly Report

クラブスローガン
 地元と海外の地域社会における
 独自のプロジェクトの実施を

2016-17 RI テーマ
 人類に奉仕するロータリー

会 長 秋 保 賢 一
 幹 事 大 橋 哲 也
 発 行 公共イメージ委員会
 例 会 火曜日 12 時 30 分
 会 場 岐阜都ホテル
 事務局 岐阜市神田町 2-2
 電 話 058-264-9235

会 長 挨拶

会 長 秋保賢一

今更の感がありますが、四つのテストの話をしたと思います。

私個人は、四つのテストについては、ずっと何かピンとこない感じがしていました。あらためて調べてみると、もともとこの四つのテストというのは、商取引の行動基準であったようです。これを商取引の行動基準として、見直してみるとよく分かります。

「真実かどうか」というのは、商品の品質や取引の過程での説明に嘘偽りがないことを意味していたようです。昨今の産地偽装や賞味期限切れとかの食品の偽装や某自動車メーカーの燃費データ改ざん事件などが思い出されます。今の言葉で言えば、広い意味でのコンプライアンスを指しているともいえます。

「みんなに公平か」というのは、原文では、「fair」という言葉が使われているので、「公平」というよりも「公正」が適当であるという説があります。また、「to all concerned」というのは、「みんな」という訳語が当てられています。実は取引の関係者、つまり、取引先のことを意味していたと言われています。つまり、取引先に対して

不公正な取扱をしないということであって、私は独占禁止法で禁止されている優越的な地位の濫用をすぐに思い出しました。

「好意と友情を深めるか」についてですが、これももともとの原文は、「good will」なので、商取引の文脈で考えると商売の上での評判、信用という意味であるという説があります。

「better friendship」も友情と訳されていますが、取引先との信頼関係を深めることと解釈することができます。

最後に「みんなのためになるかどうか」についても同様に原文は、「to all concerned」なので、商取引の関係者全員にとって利益になるかどうかという意味になります。みんなの「ため」というのは、原文では、「beneficial」となっているので、お互いの利益になる、つまり Win-Win の関係になるかどうかということになります。

ロータリアンの中には、商売と関係のない宗教家や学者もおりますので、四つのテストをもっと普遍的なものにしようということで、こういう訳文になっているのですが、こうやって商取引の文脈で四つのテストを見直した方がわかりやすいかもしれません。

この四つのテストは商道徳や職業

倫理というよりも商売で成功するためのコツだったのではないかと思います。この四つのテストを守っていれば、信用や評判を落とすこともなく、取引先との間の信頼関係を築くこともできるし、職業上の成功が得られるということではないかと思われま

す。この四つのテストが最初に考え出されたのが 1931 年であったことを考えるとその後の独禁法の発展や昨今のコンプライアンス理念の広がりを先取りしていたのかもしれないと思いました。四つのテストを見直した次第です。

委 員 会 報 告

社会奉仕委員会委員長 中山 章

8 月 7 日の花火後清掃活動ご苦労さまでした。今回の朝食会場は少々きゅうくつな場所になりました。来期は、場所、時間等も含めて考えていただければと思います。

友 情 と 奉 仕 の 灯 を

スマイルボックス委員会

加納永一朗君

先日の中クラブのゴルフコンペでベスグロ優勝させていただきました。久しぶりの優勝で感無量です。皆様に感謝、感謝。

前 例 会 の 記 録

第 1 2 0 5 回

平成 2 8 年 8 月 2 3 日(火)

[点鐘] 1 2 時 3 0 分

[ソング] それでこそロータリー

[ゲスト]

[ビジター]

[出席] 会員総数 30 名 (出席免除 3 名)

本日出席 21 名 80.00%

[行事] 卓話

『ロータリーにおける青少年奉仕』

故金正司会員

担当 青少年奉仕委員会

次 回 予 定

第 1 2 0 7 回

平成 2 8 年 9 月 1 3 日(火)

[点鐘]

[行事] 観月夜間例会

担当 親睦委員会